恐怖に包まれたる全八幡市 パンを奪はれた職工の奮激

八幡製鐵所は高壓的に『閉め出し』を食はす 人心恟々として勞働運動は益々險惡化す

八幡製鐵所の同盟罷業は漸く惡化し來りたるの模樣がある殊に製鐵所當事者が苦し紛れの最後の手段たる「閉め出し」の策を取るに至つて職工職夫の態度は益々過激ならざるを得ない樣になつて來た險惡？目的の貫徹？職工職夫の態度は

誠意――なき相手方に向つて執る最後の攻擊方法さしては奇怪なる噂が八幡市の上にオッ冠せて人心恟々たるものがある即ち「閉め出し」に基因する飢餓暴動が起りはしないか象て職工職夫の怨恨の標的さなりつゝある市內の商舖又は〇〇に向かつて襲擊を試みはしないか――さソレかあらぬか官憲の鎭壓方法は前回に比し一層高壓的の態度に出で一部の間には軍隊の出動を見るに至るべしささへ觀測さるゝに至つたが製鐵所當局の

態度――は愈極端なる資本主義的傾向を加へ竹下工場課長は臨時休業に對しては賃金を支給せずしその規定に基き一切支給せざる事さし其の期間に就いては無期休業さ決定し前回に比し甚しく險惡性を帶び殆んど暴動に等しき行爲あるを以て職工職夫の出入門には巡査、憲兵の垣を拵えたる上に構ひたしきに至つては南門の如き松板を以て圍を拵え一切出入を閉鎖して夥しく盟休者の神經を昂奮させてゐる

米櫃――を奪はれた多數の勞働者の行く可き道に就ては想像するだに寒心に堪えない結果を招來するであらうが製鐵所當事者は其ンな事を考へ得る程神經過敏ではないさ見えて職工四百十六名職夫百十八名、諸貧人夫五十二名合計五百八十六名の所謂罷業破りを順良なる者とし中央溶鑛部と熔鑛爐及び製鋼所等の一部に就業せしめ更に所內在鄕軍人分會々員百名武道會々員三十名を以て要所々々に

警戒――の網を張り必要に應じては各溶鑛の火を焚く決心であるさ言つて居るけれども到底是れで滿足な作業に從事し得るものでない事は勿論一般盟休者の反感は愈〻熾烈になつて行く事は當然の事實さ言はなければならない

◎熱辯火の如し◎ 長官の不誠意を鳴らす 代表者の顚末報告演說會

斯かる如き空氣に包まれた裡に二十四日夜勞働團體より選はれたる委員中川次長さの會見顚末さ東京に於ける白仁長官さの會見顚末報告演說會を勞友愛の兩會聯合のもさに二十五日午後二時より旭座八幡座に於て開會

立錐――の餘地なき入場者さ嚴重なる警官の警戒の裡に司會者藤田文六君の開會の辭中川次長さの會見顚末に就いて富永尚城君同所感に就いて藤田俊次郎君東京に於ける白仁長官さの會見顚末に就いて上京委員たる木村鋭吉君交々壇上の人さなつて猛烈骨を刺すが如く當事者の不誠意無誠意に對して

肉迫――し殆ど完膚なき迄に止めを刺し午後四時より場所を替て旭座に臨會入場者二千名を算し更に入場し興はずして場外に溢れたる群衆五六百を越え正服私服の警官其中に交り時々喊聲を上げて內外相呼應して物凄く演者の一句一句製鐵所當局の不誠意なる事實を數え來るや、聽衆愈々昂奮し來り場內殺氣立ちたる模樣に臨監の若松署長小島警視は

解散――を命ずるに至つたが幹事は斷然聽衆を宥ふじて解散に歸せしめ更に許可を得て演說を續行し黃昏時に至つて閉會せしも場外の群衆さ場內の群衆さは會場前にて當時の騷崩を打ち更に氣勢を昂めて不穩の狀態を呈し製鐵所臨時人夫相良助作（三一）の如きは短刀を揮つて一發官を刺さんさするが如き危險性を帶びたる群衆は容易に解散する如き模樣なし

行け！溶鑛部へ 行け！熔鑛爐へ 演說會後の群集沸騰す

演說會場前に於ける群衆の中に不穩の行動に出でたる二三名の者の檢束ありたるさ官憲の極端なる警戒振りさに依り漸く三々五々さして何處にか立去る者ありしも尙ほ殘る者は何をか期待する者の如く緊張して夜に入るを待つ時に「中央溶鑛部へ」さ呼ぶ者「熔鑛爐へ」さ叫ぶ者果然製鐵所へ襲擊を行はんさするの

形勢――は刻々さして濃厚になつて來た斯くて此一團は漸次製鐵所の方面に向かつて行進し道々同志を集めて愈々製鐵所に肉迫せんさするや早くも情報を得たる警官隊は其入口に於て人垣を作つて是れを阻止し警戒隊は急に數を加へて要所々々に配置されたるを以て目的を達し得ざりし群衆は喊聲を上げて氣勢を昂めつゝありしも遂に夜の更くると共に解散するに至つたが斯の如き狀態にては愈々勞働者の運動の上に於て惡化し來り遂には取りかへしの付かざる場面を

演出――せざるやも計られずさし職長及び伍長に依つて今回の勞働爭議を關聯に解決せしめんさ既に運動を開始するに至つた

職工の聲

私の見た所を投書します（一職工）

◇中央區の或理髮店に於て或職工理髮師 ……

長官文句あやり ――大罷業雜觀――

官憲に對する反抗心

八幡の罷業勞働者は八幡座さ旭座の二ケ所で演說會を開いて氣勢を揚げたが、閉會して木戶を出る時、下足番が不足して押しへしする中に警官隊が警戒して居るので、勞働者等は口々に「オイ巡査さん、手がすいてるのなら下駄をそつてくんな」さ云つた調子で冷罵を浴びせて居た。勞働者側の警官に對する反抗心は次第に高まつて來つゝあるさうだ

長官の胃袋さ勞働者の胃袋

白仁長官が勞働代表者に會つた時、肝腎な話を茶化して了つて「僕の家では外米さ煮干魚ばかり食つて居る」さ誇張し、暗に勞働者の生活が贅澤な結果、賃銀値上の要求も起るのださいはぬ計りのさが新聞に發表されたので勞働者等は承知せず「自動車で出勤して盲判を押してさつささ歸るんだつたら、それでなくちや腹が減るまい。一つ中央溶鑛の前に十二時間ブッ通しにスコップを持つて立つて見らた吾れ〱の要求が無理か何うか解るだらうよ」さ言つてゐる長官猶文句ありや

消防夫も職工連さ同じ腹

八幡では此の前の罷業の時から警察は消防組を狩り出して市中警戒の任に當らせて居るが、消防夫等は「吾々は警察の下廻りみたいな役に廻されて居るが腹は職工連さ同じでさ。食へなけりや食へる樣にするのが當り前なんだから」さ言つて居た。其の點になるさ、皮の擦り飯を當がはれて承知せず折詰を要求して貫徹した巡査連も同類項た。

完膚なき 福岡警察署を剔破し土… 檢事の論告

福岡不良警官續行

◇福岡 警察署瀆職事件公判は廿七日昨日に引續き午前九時三十分開廷裁判長は被告一同の證據調べを終りそれより檢事の論告に入つた平井檢事は先ず收賄中島、土田に對する論告より始め本縣下に於て今日此の瀆職事件に遭遂することは夢にだも豫想し居らざりし處であつた一昨年縣下に於ける一大瀆職事件は實に全國稀に見る大事件で一般社會に警告を與へたることは偉大なものであつて以來一般官吏への中元年末の贈り物すら廢したさ聞いて居る然も當縣下に於て事實は豫想に反して最も

◇**嚴格**なるべき瀆職防止の職責にある警察官が率先して此の違反を爲すに至つてのは一警察を毀せざるを得ぬさ冒頭して警察官吏の職責を論じ、サーベルの音を聞き肩章を見れば直に衆人は襟を正して尊敬するさ云ふ態度でなくてはならぬさ喝破し被告等の行動は單に金品の贈與を受けたのみに止まらず其の手段は實に**惡辣陋劣を極めて居る**併も窮狀を口にして金品を要求し脅迫的文句を並べて朝夜は恐嚇三日も繋飮し時には**官憲風を吹かせ淫賣を強請して居る**が如き實に言語同斷であるのみならず遂には料理屋の

◇**主人**から戒告を加へられた事實さへもある斯くの如くして警察官の威信何處にありや殆んど彼等は**官權の名を被たるユスリ又は遊野郎**さいつても好い有樣である而して此の廢吏たるや一は警察司法事務を擔任した警部一は高等係主任をした警部補である同被告類は單に二人に止まらず當時福

岡署 部補 悉く 支へな 主任警 のなき は無 の期 或警部 四五十 此の

◇一行 一十 判中 行動 動して 行せし 非常に 迄も料 らぬさ 此の時 暗黑 さ言

今曉 太郎 物 火 戶を 所に ら 同與 損 燒 上

◇然し 入が有 入がた 除儀な 之に 腹が た其れ は何れ ◇彼等 の値上 た職工 終るさ

帝國議會解散

第四十二帝國議會は本…

長崎港外に沈沒した 蘭船引揚計畫

福岡…